

## 『現実を直視し、決して逃げない!!』

## 『経営者はやるべきことをやる』



高井法博会計事務所  
TACTグループ 関連11社代表

税理士 高井 法博

世の中、大企業を中心に業績の回復を伝える記事が日増しに多くなってきた。しかしながら、中小零細企業の実態は、誠に厳しいものがある。

企業経営者は、時の流れや変化を無視し、何の手も打たねば、企業は生き残れない。いまや、企業経営者にとって、倒産という事態は他人事ではなくなっている。

## 一、脚下照顧を徹底的に行なおう

職業柄、日々色々な経営者にお会いし、色々な相談を受ける。経営に問題があり、金融機関等から紹介を受ける企業も多い。その多くの経営者の特性として、会社が危機的状況に向かっていることに感覚的に気づいていても、それを確認することを避けたり、色々な屁屈をつけたりして、なかなか認めようとしない。気持ちはわかる。しかしこれでは物事は解決しない。経営者は現実を直視し、会社が危機的な状況を迎える前に、どうすれば倒産という事態を回避できるかを、真剣に考えるべきである。物事を、

感情論や精神論でごまかさず、論理的・科学的に捉え、決して逃げないで解決策を見つけ出し、決断し、確実に実行に移すことが大切である。そのためにも、し

っかりとした記帳に基づく、リアルタイムの正しい決算書が必要となる。そして、その数字を良くするために具体的に組み替えて行くことが必要である。

## 二、経営者はやるべきことを迅速にやろう

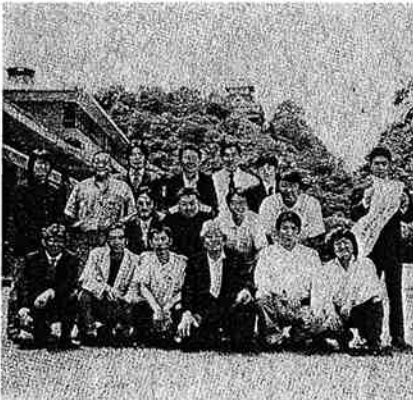
どの経営者も、過去の良き時代や成功体験がなかなか忘れられず、いまだにバブル時代の経営手法を踏襲している。新しいことに挑戦せず、居心地の良い現状維持を続けている。経営危機を目の前にして何もしないことは、座して死を待つこととなる。企業を再建するために、経営者には厳しい決断が求められる。長年苦楽を共にしてきた社員に辞めてもらったり、古い仕入先や得意先に無理を言ったり、迷惑をかけることもある。先祖伝来の思いのある土地や家屋を手離さねばならない事態も生じる。このため、

企業再建の決断を躊躇する経営者も多い。企業再建は、時間との勝負である。たとえ、経営赤字や債務超過となっても、早期に適切な対策をとれば、倒産を回避することができる。これが一定時点を過ぎるとどうしようもなくなっていく。大事なことは、危機的状況になる前に、企業に体力のあるうちに、企業存続の手段を次々と打つことである。

## 三、会社再建のシナリオ(経営計画書)をつくる

気づいた時が一番早い時である。会社の再建のために、まずやるべきことは再建のシナリオ・経営計画書をつくることである。まず動き回る前に、経営者自身が脳みそがちぎれるくらい、考えに考え、生き延びる方策を時間軸で確立することである。しかし焦りから生き延びる方策を考える前に走り出す経営者がいる。愚の骨頂である。これではますます悪循環で、ただでさえ不足している貴重な経営資源をいたずらに浪費し、抜き差しならぬ状況に会社を追い込んでしまう。経営は計算通りゆくものである。経営計画書は会社の設計図であり、シナリオであり、会社の意図した方向付けを行なうものである。経営者にとって、経営計画書の作成以上に重要な仕事は果たしてあるのだろうか。経営計画書のために時間を費やし、他の仕事ができないのなら

ばわかる。しかし、忙しいという理由で経営計画書を自ら作る時間が無いと言うことほどおかしなことはない。我社の未来の羅針盤ともいえる経営計画に時間を費やす事こそ、時間の最も有効な使用方法であり、経営者の行なうべき事である。私は常々こう思う。まさに会社の非常時ほど、最優先でこれを行なうべきである。その後は何が何でもあらゆる手を尽くし、この数字を達成することである。経営はまさに「格闘技」である。また「経営は実行」である。経営の責任を「他責」にしてはいけない。経営の責任は経営者にある。だから一つ一つの判断指示を疎かにしてはいけない。だから中途半端な仕事や、ルールを守らない者を放置してはいけません。それが命取りになる。自他共に厳しく一つ一つを良い方向に、プラス方向に向けて、兎に角一歩一歩と進めて行かねばならない。



経営計画実施作成セミナー  
ご参加の皆様と